



臍ヘルニアの綿球圧迫法



<綿球圧迫法とは？>

臍ヘルニア(いわゆる「でべそ」)の多くは 1 歳頃までに自然治癒するため、従来は放置されてきました。

しかし、

- (1)放置した場合に「でべそ」が大きくなる例がある、
 - (2)自然治癒しない例がある、
 - (3)自然治癒しても過剰皮膚が残り、「でべそ」が治っても見掛けが悪くなる場合がある、
- ため、最近「綿球圧迫法」を用いて積極的に治療します。



<方法>

直径 5-10mm の綿球を臍ヘルニアの部分にあて、臍ヘルニアをへこませ、臍の両側の皮膚を中央にたぐり寄せて絆創膏で固定します。さらにその上をサージカルテープで被う場合もあります。こうして、4-8 週間固定しておくで、臍ヘルニアが治ります。1 週間に 1 度、絆創膏の貼り替えを行うので、通院してください。



<ポイント>

- (1)生後 8 週までに綿球圧迫法を開始した場合には、それ以後に開始した場合に比べ、治癒率が高くなります。「臍は早いうちに押さえる！！」のがポイントです。
- (2)綿球圧迫法開始後、8 週間以内に 60%が治癒します。
- (3)綿球圧迫法がうまくいかないあるいは効果が上がらないのは、皮膚が絆創膏でかぶれてしまって圧迫を継続できない場合、皮膚の可動性が大きすぎて絆創膏で固定しても臍を十分に圧迫できない場合、治療開始が遅れた場合などです。
- (4)圧迫を 1 日休むと 1 週間分の効果がフイになってしまうので、圧迫を休まずに行うことがポイントです。自宅で絆創膏がはがれてしまった場合には、同じように絆創膏を貼って翌日受診してください。綿球を固定し直します。
- (5)サージカルテープ等で被ってあれば、そのままお風呂に入って差し支えありません。
- (6)皮膚が絆創膏でかぶれた場合には、ステロイド軟膏を塗布して、皮膚を元通りにしないとイケません。軟膏を塗布した皮膚には絆創膏がつかないので、綿球圧迫法を一時的に中断しないといけません。ただし、絆創膏の固定位置を変えて、続行可能な場合もあります。



<是非、ご相談を！！>

当院では積極的に「綿球圧迫法」を行っています。是非、御相談ください。